

## 第6回匝瑳市市民協働のまちづくり委員会 会議結果概要

- 開催日時 平成28年1月26日(火) 午後2時から午後4時
- 出席委員 関谷委員長、椎名(嘉)副委員長、那須委員、林委員、萩原委員、伊藤委員、松田委員、石田委員、勝又委員、加瀬委員、椎名(勤)委員、岩井委員(12名)(欠席:大木委員)
- 市出席者 (事務局/企画課) 太田課長、大木主幹、増形主査、小林主査補

発言者	内 容
	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ ※委員長あいさつ</p> <p>3. 議 事 (1) (仮称) 匝瑳市市民協働指針(案)について ※パブリックコメントの結果について、意見が提出されたものの匿名であったため、実施要領に基づき指針案には反映せず、また公表しない旨を説明。 ※事務局から資料1、資料2に基づき、指針(案)について説明。</p> <p>《各委員からの質問・意見》</p>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素案に対する自分の意見をまとめて紙に印刷してきた。全て発言すると時間がかかってしまうので、この場で議論すべきかどうかについては議長にお任せしたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細かな文言については最終的に事務局あるいは私に委ねていただくとして、議論したほうが良いとお考えの部分は発言いただきたい。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・些細なことも載せている。議論にも参加させていただきたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・匝瑳市の特性について、赤字で書かれている部分を加えたほうが良いという御提案である。事務局とも協議し、できるだけ反映させていきたい。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指針自体は評価しているが、今後、この指針に基づき推進していくためには、いかに市民の共感を得て、巻き込むことができるかがポイントであると考え。そのためには組織、仕組みを作っていくことで大きく前進していくと思う。スピード感をもって実行していくことができればいい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局に確認だが、今の段階で固まっている今後の方針があれば御説明いただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称) 市民協働推進協議会や市民活動サポートセンターについては、組織にかかる新たな事業となるので、庁内の事務改善委員会で調整を図っているところであり、まだ皆様にお話しできる段階ではない。指針が確定した後は</li> </ul>

委員長	<p>条例の制定となる。今年度中、3月議会に上程したいと考えている。条例制定後は施行規則の制定や推進組織の新設を進めていく形となる。指針は策定して終わりではないので、引き続きご協力いただきたい。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>指針ができるということは、今後、市民レベル、地域レベル、行政レベルで様々な活動を進めていくに当たって共通の考え方として押さえていくことになる。色々な動きが出てくる中で、常にこの指針に立ち返って検討していくことになる。一般的には、今後、条例制定のほか、推進計画を策定するところも多い。推進計画とは、指針に例示として示されている取組について、どういうふうに進めていくのかを示す計画であり、進捗管理しながら進めていくものである。ある程度スピード感が必要というのは御指摘のとおり。市民と行政が協働に対する意識・考え方を共有すること自体にかなり時間がかかるかもしれないが、意識が変わらなければ何も動かないわけではなく、様々な仕掛をしていく中で自覚していくこともある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>指針のP14から記載されている事項は、行政が主体となって取り組むべきことが書かれているが、全て実行するのはかなり大変ではないか。行政はこれらをスピード感をもって進められるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な取組例として記載している。この中でできることから優先順位をつけて取り組んでいきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働の仕組みがないと、市民の側から協働に対して積極的に取り組むのは難しい。仕組み作りはスピード感をもって進めていかないと指針が絵に描いた餅になってしまう。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕組み作りや体制作りは、市民が参加できる環境を整えることであり、どう提案すれば、どう繋がって、どのような形になるという仕組みがなければ、意見は言っても「検討します」で終わってしまうことにもなりかねない。その上で、匝瑳市なりの協働の仕組みを考えていくのはこれからである。推進計画は作るべきであるが、例えば5年間の計画の中で、すぐできることは事業化し、長期的に検討しなければいけないことは調査研究を進めていくなど、短期・中期・長期それぞれのスパンでの取組を計画に盛り込んでいくことが必要ではないか。サポートセンターも昔と今では求められる機能が違ってきている。匝瑳市なりのサポートセンターの役割や運営形態を推進計画の中でしっかり考えていくというイメージかと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>6回の議論の末に指針は形になった。今後、指針は大事に扱っていただけたかと思う。今後、どのように進めていくかについては、リーダーの育成が重要であるかと思う。視野の広い人材を育てていかないといけない。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>皆さんが期待するリーダー像とはどのような人か。そこがクリアになって初めてそういう人が育っていく。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、今の時代に求められているのは多様性がわかりつつ、ある程度リーダーシップが取れる人ではないか。意見が分かれるところではあるが、今の</li> </ul>

委員長	<p>時代には安倍総理のような人が求められていたのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの現場では、ある程度強いリーダーシップをもって引っ張っていく部分が必要であるが、特定の考え方だけに固まっていると人がついていかなくなってしまう。その意味では、御指摘のとおり多様性があることで色々な声を聞くことができることも必要である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理想のリーダーもいいが、そもそも先頭に立って活動したくないという人が多く、適任というよりは順番でやっていくという状況になっている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の議論は指針の内容について検討するのではないのか。この後の段階のことを議論している。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指針の中にもリーダーの育成について記載されており、それをどう押さえておくべきかを話し合っており、あくまで指針の中身について検討している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員間で言葉について共有できていないので、立派なものが出来上がったが、これを私達の名前で市民に読んでいただくことになるので、そのためにはどんな指針がいいかを話し合うために集まったと思っている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その通りである。市民に伝えるに当たって、より良い表現について御意見をいただければと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・匝瑳市の置かれた状況の最初のくでりで、人口減少や高齢化、厳しい財政状況について言及されており、若い世代が参加している地域活動についても分析されているが、こうした状況に対して何も対策が示されていないのに、若い人達から共感が得られるのか。こういう状況だからこそ、若い人達に住んでもらえるまちづくりを進めていこう、ということがない。内容的にはすごくいいが、例えばPTAの役員などは大変なのでやりたがらない。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働というのはあくまでも手法である。今の御指摘は、例えば協働の方向性として、もっと若い人達が活躍し、可能性を膨らませることができるまちづくりを目指そうではないか、ということを前面に出してもいいのでは、ということか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この内容だと、若い人がリーダーをやりましょうといったときに、何をやっていいかわからない。認知症を見守ろうという例が書いてあるが、これを見て進んでこの中に入ってこられるかどうか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指針を見ていく中で、住民の方々が当事者意識をもってくれないのではないかと、という御意見である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指針については十分ではないかと思う。推進計画の中で具体的に検討していけばいいのではないかと。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・匝瑳市がどのようなまちを目指すかについては、総合計画の基本構想の中の将来都市像で示されており、その中の柱の一つとして市民協働のまちづくりが掲げられている。また、人口減少、少子高齢化対策については、地方創生の総合戦略の中で検討している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会としてはこれが最後になるので、我々の手から離れることになるが、</li> </ul>

事務局	<p>今後の具体的な実践活動に参加していきたいと考えている。P 18 に推進協議会やサポートセンターについて記載されているが、匝瑳市では、現状を踏まえてどのような組織を想定しているのか。メンバーや権限等を想定して記載されているのかと思うがいかがか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織については事務改善委員会で検討することとなっており、現在、部会の段階なので庁議など全体での合意まで至っていない。考え方については、推進協議会は、推進計画の策定やP D C Aサイクルの中での活動内容の検証等を行っていくという考えであり、サポートセンターについては、話し合いの場、相談できる場ということを中心に考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的、常識的な回答である。我々は本日で終わりである。匝瑳市の特徴を踏まえたものが出ていない。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指針を踏まえて、どう具体的な動きを作り出していくのか、というところで、匝瑳市らしさが表れてくるのではないか。そのためにまずは指針が必要であるということから策定してきた。協働を本格的に進めていくのであれば、それなりの推進体制をつくる必要がある。そのことも含めて推進計画を策定し、取り組んでいかなければならない。もう一つ、この指針が浸透していかなければ、職員はもとより市民が当事者意識を持ち得ない。例えば、職員は誰もが職場の机の上に指針を置き、常に参照しながら事業を練り直し、具体的な動きにこの精神を活かしていくということが、それぞれの分野・部門で見られなければならない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が誰でも目にするというのであれば、指針の言葉を正確に、精緻に作りあげていかなければならない。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文面については最終的には隅々まで確認しながら確定させることになるかと思う。指針をそのまま市民に見せても、自分の問題として具体的にイメージを膨らませるのはなかなか難しい。指針を踏まえながら、この考え方を子ども達や若者にどう伝えていくか、様々な機会を通じて、それぞれの文脈の中で、指針に書いてあることを解きほぐしながら一緒にやっという働きかけをしていくことが前提である。今後、色々な動きを引き出していくという視点において、指摘があったらお願いしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指針ということでは、内容はこれでいいのではないか。匝瑳市の行政を運営していくに当たって最上位の計画が総合計画であり、その柱のひとつに市民協働がうたわれている。その市民協働をこの指針に基づいてどのように具体化していくかについてはこの次になる。指針の中には取組例が示されており、先ほど話のあった教育関係についても記載されている。その中でリーダーを育てていく。指針に書かれていることを頭に入れながら次の取組につなげていければと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指針の内容としてはこれでよいという意見が多い。むしろこの後どのように推進していくかについて関心が向いているようだ。推進計画の策定について</li> </ul>

	<p>も、進め方を含めて方針が固まっていない状況ではあるが、一つ一つ具体的に進めていくために議論していく必要がある。協働は横ぐしであり、推進計画を策定するのであれば、役所内の各部署それぞれが持つ各事業を協働の視点からもう一回見直すという形がいいと個人的に思っている。見直しながら、市民や地域と連携するともっとこんなことができるのではないかと、いうことを練っていく。市民・地域の側としても自分達はどんなことができるのかをどんどんアイデアを出していき、双方の考え方を盛り合わせていくのが私の推進計画のイメージである。その中で匝瑳市らしさや匝瑳市独自の課題解決に向けてはずみをつけていくものになるといいと考える。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に協働というものはどういうことかということを理解してもらわないといけない。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それも本腰を入れるのであれば、事務局の方々などがどんどん地域に出向いて行って、地域住民の方々とは色々な話をする。あるいは委員の皆様が間に立って、他の市民の方と一緒に共有していくというプロセスも今後は必要になってくる。いずれにしても働きかけをしていかないと前には進まない。行政のスタンスが問われている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進め方としては、3月に条例を作るということであるが、その後は施行規則を作るのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月に指針が策定されたら、概要版を全戸配布する予定である。市の広報でもお知らせする予定である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多少の文言の変更はするとして、指針に関する議論は打ち切り、今後の動きについては次の「その他」で話し合ったらどうか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その前に指針案の中身について意見があれば御指摘いただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例として認知症だけが取り上げられているが、みんなが知っているようなよかっぺ祭りなどの例も入れていくと協働に対する理解が進められるのではないかと。ボランティア同士で連携してボランティアフェスタをやっているもの団体同士の協働である。PTAや子ども達も関わっているということが伝わるのではないかと。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概要版についてはイラストを交えながら、みんなで話し合いながら進めていこう、ということがわかりやすいものにしていきたいと考えている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の視点は重要である。協働は匝瑳市にとって全く新しいものではなく、P10にもあるように「新たな協働ステージのはじまり」として位置づけていて、今後は「協働」という言葉を与えて、より発展したステージに入っていくとしている。それを伝えるために、概要版がいいのか、あるいはもっとターゲットを絞った形で伝えていくということが重要ではないかと。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指針にあまり細かなことを盛り込みすぎるのはどうか。概要版ならば概要版に入れていけばいいのでは。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、市民に伝えるという文脈の中で工夫していただきたい。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P 7-8 のイラスト・図は事務局で作成したものか、それともどこかから持ってきているか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 著作権のないフリーのイラストを使用している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民に協働について理解してもらうには、地区ごとに協働を考えてもらうことが必要ではないか。概要版だけではすごく難しい。地区の方に通知して集まってもらい、よければ市職員の方に来てもらって話をしてもらって下地作りを図りつつ、自分達の地区の課題について考えてもらうというようなことをやっていきたい。小さい単位で始めていくことが重要だと思う。行政が来てもらうことで「行政も変わった」という姿勢を見せることができる。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それができるのであればかなり理想的である。匝瑳市といってもたくさん地区があって、地区によって様子や反応が違い、自分達の思いや形があると思うので、その地区なりの協働をやるうという動きにつながると素晴らしい。そういう取組があちこちで出てくるといい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中身については御了承いただけるか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P 3 について、八日市場についてのみ記載されている印象がある。産業についても漁業の人達がいるが、そういう視点が抜けている。ぜひ入れてほしい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色々触れておいたほうがより当事者性も上がるであろうし、バランスという点からもよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この指針をもとにした条例というのは、具体的にどのようなものになるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には、協働の基本原則など指針の考え方を条文化することになる。具体的な取組等については規則等で定めていくことになると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ では、条例には推進については触れないということではよいか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な考え方をまとめたものを条例にする。条例は、議会の議決が必要となる。細かな規定については盛り込まない予定。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針ということでは特に言うことはない。推進ということであれば具体例がなさすぎる。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の進め方ということでは、一つはこの指針を踏まえた上で条例を作る。もう一つは推進計画を作って、そこで具体的なものを盛り込んでいく。ベースの部分では、協働という考え方を浸透させるために、概要版を配布するところから始まり、色々な動きを作り出していくことになる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これらを作り上げていくのに、どのくらいの期間を想定しているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進体制によっても違ってくると思うので一概には申し上げにくい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員長は色々な自治体の状況を見てきていると思うが、進んでいるところの例などを教えてほしい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最近の傾向では、きちんとした推進計画を充実させるという方向にしている。条例については、理念条例とするのであればなくてもいいと私は思っている。あくまで実効性を担保することが必要。多くのところは5カ年あるいは10カ年の推進計画を策定し、短期・中期・長期でどういうふうに進めて</li> </ul>

	<p>いくつかを定めている。総合計画の見直しと併せて協働を浸透させていくのがいい流れである。もっと進んでいるところは、条例にしても推進計画にしても住民参加型にしている。推進計画では分野別にワークショップを開催し、職員も入って活発に意見交換している。高齢者福祉や環境問題、経済活性化など色々なテーマがあるので、それぞれについてもっと踏み込んだ議論を経ながら計画作りをしている。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その意見を受ける受け皿が行政にあるのか。ワークショップだけやってもしょうがない。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップで出てきた意見を集約して条例に反映させたり、推進計画に盛り込んだりしている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発見のようなものか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それもあるが、既存事業の見直しなども行っている。例えば子育て支援において、実効性のある事業を行っている部分もあれば、全然カバーされていない部分もある。そういったものが見えてきて、市民ができることや、連携して何かできないか、といったことをどんどん出し合っていくことにより、実効性の高い推進計画になっていく。理想的なことを言えばそういうワークショップ型で推進計画を練っていくといい。あくまで個人の意見だが。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と人をどうやってくっつけていくか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのためには、当事者の人に語ってもらわないと進まない。より具体的なテーマを巡ってアイデア出しをしていく。協働の型は決まっていない。それぞれの立場でできることを持ち寄っていきながら、うまく紡いでいくのが協働である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今言ったことを進めていくためには、誰かが先頭に立たないといけない。市民の中からそういう人がぽっと生まれてくるということは考えにくい。軌道に乗るまでは行政がリードするしかないのでは。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々あり得る。一つは行政がリーダーシップを発揮する。まずは場を作ることが大事。そこに行政の強いリーダーシップを期待したい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がイメージする協働は、自分の年代で何かできることがあるので、それをやってきたい。若い人は若い人なりに何かあるはず。それを思ってもなかなかできない。そのきっかけがこの指針であり、最初は行政のリーダーシップが必要だと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的に、職員数が減らされているが事業数は減らせないので、一人当たり職員の業務量が増えてきている状況の中で協働を推進することは負担が増える、というイメージを職員は持ちがち。自分が担当する事業をいかにこなしていくかに意識がいかると、協働は全く進まない。短期的には調整役としての負担はかかるが、色々なつながりができ、具体的な行動が出てくると、中長期的には負担は減ってくる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政に代わってそういったコーディネートをやる機関とかはないのか。</li> </ul>

委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>例えば商工会議所、青年部、JCなど、中間的な役割を果たす機関は色々ある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>JCにはコーディネーター機能はあるが、単年度制なので中長期的な動きはできない。誰かが強いリーダーシップを発揮しなければ協働は進まない。市民、地域団体、企業と分けているが、私はどれにも当てはまる。分ける必要があるのか疑問である。行政が地域別、年代別に分け、男女比も考えてやっていただけたらと思う。あと地域活動団体は声大きい。企業にも積極的に声をかけていってもらったほうが協働が進むのではないかな。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人の人がどこにも当てはまるというのは大事。色々な立場の人が連携するといっても、事業者と市民活動団体と地縁団体で横の交流がかみ合っていないケースも見られる。そこに行政や商工会、JCなどが間に入るといい。本格的な推進体制でなくても、色々な人が橋渡しになりながら、ごつくばらんに話す場がどんどん作られていくといい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマごとによって変わってくるのではないかな。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会はこれで終わるが、知恵を貸してほしいとか、どういうふうを考えているかなど、行政から我々に声をかけてもらえれば、会議を開かなくても協力できると思う。我々も委員が終わったからといってこれで終わりではないと思っている。どんどん利用してもらっていい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>色々なことをしたいと思っている人達は多いが、どうしたらいいかわからない人も多い。その人達が自分事として考えることができるのでいい。具体例も色々書いてあるが、例えば職員の地区担当制などは、何かあったときに課に話をもっていくのではなく、その担当職員に声をかけて、こんなことをやりたいと思っている、と相談できる。そういう体制ができたらいと感じた。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>あまり構えずに意見交換したり、ヒントを得たり、ちょっと何かやろうかといったきっかけを作ることができるといい。最近条例よりも推進計画に向かっているというのはそういう部分もある。地区担当制度も見直されてきており、県内では香取市や南房総市、習志野市などは本格的に運用されている。色々な手法がある中で、どのような仕組みがあると話し合う環境が整っていくのか、優先順位を考えてみるのもいい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政が主体ではなく、市民や企業が中心となって協働を進めている例などはあるか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>色々ある。例えば防犯パトロールなどは、地域で人を集めて、青パトまで購入している。こうした動きが高齢者の見守りなどにつながり、そういった地域の核ができてきたところに対して、行政が応援し始めた、ということもある。あるいは、行政がカバーしきれていない高齢者の買い物支援や交通・移動支援など、市民が率先してやりはじめ、そこに行政が協力するという形もある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>話がずれてしまうが、小学校の統廃合により匝瑳小学校が廃校になる。その</li> </ul>



<p>委員長</p>	<p>ことによって一層若い人達が離れていってしまう。若い人達が生活できる環境作り、子ども達が学べる環境作りを総合的に進めていってほしい。子ども達は地域で育てていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校も単独で運営していくのではなく、どう地域と連携していくかということが子育て環境の良し悪しにも関わってきていて、それが若い世代、子育て世代の地域に対する評価にもつながっている。ただ、学校の統廃合については、物理的な要因が大きく、予算上運営が厳しいなど別の理論で動いている部分もある。学校は地域の核であるので、できれば統廃合はすべきではない、というのは私も同感である。そういった考え方で教育環境、子育て環境を充実させていくというのが協働の精神であり、大切にしていきたい。もっと少子化が進めば、もっと統廃合が進みかねないので、そうしないための動きを今後どう作っていけるか。具体例にもあったが、学区単位でのまちづくりは学校をコアとして、その中で子育て教育だけでなく高齢者問題を考えることにより、世代間交流も増える。近年注目されている協働手法である。</li> <li>・この委員会として与えられた使命は指針をまとめ上げることであった。皆様の協力のもとにこのような形にたどり着いたことは大きな前進である。この後どういう動きを作っていけるかは未確定な部分があり、皆様も私も歯がゆいところであるが、このあたりは引き続き見守っていただき、具体的な動きにおいては、間違いなく皆様のお力・役割が必要になってくる。そこへのつなぎとして指針を位置づけてほしい。</li> </ul> <p>(2) その他</p> <p>※事務局から今後の流れ等について説明</p> <p>4. 閉会</p> <p>※委員長からあいさつ</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
------------	--